

つゝ、ゐづゝ、ゐづゝ、にかけしまろがたけすぎにけらしなみざるまにかへし。

くらべこしふりわけ髪もかた過ぬ君ならずしてたれかあぐべきなどいひくゝて、つゝにはいのごとくあひにけり。

〔大鏡五太政大臣兼家〕次郎君藤原道綱兼家子は陸奥守倫寧ぬしの女のはらに、おはせし君なり。略中この

母君略中との家兼のおはしましたりけるに、門を遅あけ、れば、たびく御せうそこいひいれさせ給ふに、女君、

なげきつゝ、ひとりぬる夜のおくるまはいかに久しきものとかはしる、いとけうありとおぼして、

げにやげに冬の夜ならぬまきの戸もをそくあくるはくるしかりけり

〔源平盛衰記三〕有子入水事

儲モ有子ノ内侍ハ、徳大寺何トナキ言ノ葉ヲ得テ、思日日ニゾ増リケル、千早振神ニ、祈ヲカクレ共、其事叶フベキニアラテバ、浮世ニツレナクアレバ、コソ、係忍難事モアレ、千尋ノ底ニ沈ミナバヤト思ツ、舩舟ニ便船シテ、有シ人ノ戀サニ、都近所ニテ、兔モ角モナラントテ、波ノ上ニゾ漂ケル、責テノ事ト哀也、船ノ中ノ慰ニハ、琵琶ノ曲ヲゾ彈ケル。略中 有子終ニ攝津國住吉ノ湊ノ沖ニテ、船ニ立出ツ、海上ハルカニ見渡テ、

ハカナシヤ浪ノ下ニモ入ヌベシ月ノ都ノ人ヤミルトテ、ト打詠テ、忍ヤカニ念佛申テ、海中ヘゾ入ニケル、

〔徒然草上〕延政門院悦子後嵯峨皇女いとさなくおはしましける時、院嵯峨へまいる人に、御ことづ

てとて、申させ給ひける御歌、

ふたつもし牛のつのもじすぐなもじゆがみもじとぞ君はおぼゆる、こいしくおもひまいら